

2022年度 実務経験（臨床経験）のある教員の授業科目一覧

科目分類	講義名称	単位数		開講年次	担当教員名	授業科目の概要
		必修	選択			
看護学の基盤となる科目Ⅱ	実践疫学演習		1	4年次前期	岩本里織 山下正	疫学で学んだ知識を活用して、地域における健診データの分析・評価など、実際の事例を通じて疫学統計的な考え方、分析方法および結果の示し方等について学習する。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	健康行動論		1	4年次前期	丸尾智実	人間の思考や行動に関して、特に行動変容に焦点をあて、近年の神経科学の知見をおりまぜ、学際的な観点から学ぶ。その上で、健康のための行動変容を支援する方策、さらにセブピーなどに応用する方策を考察する。また、最近の保健・医療・福祉分野における行動科学に関するトピックを取り上げ考察する。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	看護病態学Ⅱ	1		2年次前期	谷知子	循環器系、血液・造血管系ならびに脳・神経系において、これらの正常な機能が損なわれると、どのような症状があらわれ、どんな病気になるのか、また、その病因と症状の発現の機序はなにか、について講義する。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	心の病気	1		2年次後期	谷知子	まず、心が病むとはどのようなことなのかを考える。その後、さまざまな精神疾患や精神症状を呈する身体疾患をとりあげ、それぞれ発症に至る背景、発症後の経過、予防や治療説明する。授業に際しては、出来るだけビデオ、DVDなど視聴覚教材を用い、具体的に理解できるように進めていく。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	臨床医学Ⅰ	1		2年次後期	谷 知子	看護に必要な内科・外科・小児領域の医学的知識について、診断、検査、治療の側面から教授する。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	臨床医学Ⅱ	1		3年次前期	谷 知子	看護に必要な内科・外科・小児領域の医学的知識について、診断、検査、治療の側面から教授する。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	統合医療論		1	3年次前期	江川幸二	統合医療とは、全人的健康観に基づき、近代医療のみならず安全で有用性が期待できる伝統、相補、代替療法などあらゆる療法を利用し、自然治癒力に着目して、最も適切な治療法を選択するという患者中心の医療である。この統合医療の背景や考え方および実践の概要について、国際的な観点を含めオムニバス形式で学習する。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	臨床死生学		1	2年次後期	小山 富美子	死は誰もが確実に直面する。保健医療を目指す学生としてだけでなく、人生100年時代を迎える時代においては社会人として死生観を養うことは重要である。さまざまな文化や死生観、医療の変化、延命、安楽死、グリーフなどをテーマに学び、死ぬことと生きることについて多様な価値観を理解し、生と向き合うための基礎を学ぶ。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	保健医療福祉行政論		1	2年次後期	山下正	保健医療福祉行政の理念としくみを学び、歴史的変遷と国と地方自治体の機能を理解したうえで、看護職が果たすべき役割を考察し、人々のQOLや健康の向上に資することをめざす。さらに人々の生活や健康を支える保健医療福祉行政のしくみがどのように構築されているか、法制度や行政システムについて理解する。
看護学の基盤となる科目Ⅱ	医療・看護制度論	1		3年次前期	林 千冬 花井理紗	医療・看護のありようを定める法制度について、それらが現実にとどのような影響をもたらしているかに力点を置きつつ解説する。「保健師助産師看護師法」と医療従事者法。「医療法」改正の歴史と今日の課題。社会保険による医療保健制度、診療報酬制度のしくみと、国民医療費をめぐるこれまでの議論を理解し、医療政策について考える基礎を学ぶ。
看護学科目	看護学原論A	1		1年次前期	澁谷幸	看護学の歴史と本質、看護の定義、看護学がとらえる人間、健康、環境の概念の基礎、看護職の役割と職務等、看護学への導入となる知識を学習する。
看護学科目	看護学原論B	1		1年次後期	柴田しおり	人々の健康とその取り組みへの支援、看護職を取り巻く制度・法律、問題解決的な方法論と看護ケア等、看護実践の基礎となる知識を学習する。
看護学科目	看護倫理	1		4年次後期	澁谷幸 岩井詠美	倫理原則および看護実践上の倫理的概念を理解し、看護現場において生じる倫理的問題とそのアプローチ方法について理解を深め、倫理的問題に取り組む基本的姿勢を身に付けることをねらいとする。
看護学科目	看護技術入門	1		1年次前期	柴田しおり 澁谷 幸 鈴木和代 稲垣 聡 新澤由佳 岩井詠美 原口梨那	看護行為の基本となる看護技術の構造と内容を理解し、看護実践における技術の意義、およびあらゆる看護場面に共通する技術の基本を学ぶことをねらいとする。
看護学科目	基礎看護技術演習Ⅰ	2		2年次前期	鈴木和代 柴田しおり 澁谷幸 稲垣聡 新澤由佳 岩井詠美 原口梨那	自分達とは世代や生活環境、健康レベルの異なる人と接することで、それらの人々の生活や療養の様子を知り、看護の対象となる人の理解が深まることをねらう。また、病院・病棟での見学を通して、患者（家族）に必要な環境について学ぶとともに、看護師がどのような活動をしているかを知ること、さらに、看護学実習の最初の実習であることから、実践現場で学ぶための基礎的態度の形成、看護学を学ぶ動機づけになることをねらいとする。
看護学科目	基礎看護技術演習Ⅰ	2		1年次後期	鈴木和代 柴田しおり 澁谷幸 稲垣聡 新澤由佳 岩井詠美 原口梨那	環境の中で自ら回復していく能動的な主体である療養者に対し、生命力の消耗を最小限にするように、日常生活行動の基本的な援助技術の知識と方法を習得することをねらいとする。具体的には、生活を整えるための「活動、睡眠、清潔、食、排泄」への援助技術を学ぶ。

2022年度 実務経験（臨床経験）のある教員の授業科目一覧

科目分類	講義名称	単位数		開講年次	担当教員名	授業科目の概要
		必修	選択			
看護学科目	基礎看護技術演習Ⅱ	1		2年次後期	柴田しおり 鈴木和代 稲垣聡 新澤由佳 岩井詠美	診療過程における看護の役割、検査、治療を受ける患者への看護について理解し、検査や治療を受ける患者の看護において必要となる基礎的看護技術を学ぶ内容である。講義と演習で構成し、演習では、滅菌物の取り扱い、注射薬の準備、注射法、検体検査の方法、採血、吸引、一時的導尿について、モデル等を使用した学習を実施する。
看護学科目	基礎看護学実習Ⅱ	2		2年次後期	柴田しおり 林千冬 澁谷幸 鈴木和代 稲垣聡 岩井詠美 新澤由佳 花井理紗	受け持ち患者を1人受け持ち、患者の全体像の理解とその理解に基づいた個別のニーズに沿った看護の展開の基礎を学ぶ実習である。また、患者との関わりを通して、援助的な人間関係のあり方についても学ぶ。以上の経験を通して、看護に対する考えを深め、患者の看護に携わる責任を自覚できる学習とする。
看護学科目	地元創成看護学実習Ⅰa	1		1年次後期	岩本里織 山下正 山田暢子 看護学分野教員	地元（地域）で生活する人々（個人・家族）と関わり、生活の実際や健康状態、および健康に関する価値観を知るとともに、生活環境と健康との関連を考える。
看護学科目	地元創成看護学実習Ⅰb	1		1年次後期	澁谷 幸 柴田しおり 鈴木和代 稲垣 聡 新澤由佳 岩井詠美 原口梨那	病院を利用する人が、どのような目的でどのように病院を利用しているのか、また、入院中の人が病院・病室の環境においてどのように療養生活を送っているのかを理解する。
看護学科目	女性のライフコース支援概論	1		1年次後期	高田昌代	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、女性への援助の基本について教授する。ウィメンズヘルスにおける倫理的課題について考察し、時代や社会構造、日常生活、地域性を視野において女性を看護する看護師の役割・機能と将来展望について考える基礎を提供する。
看護学科目	女性のライフコース支援論Ⅰ	1		2年次前期	池田 智子	周産期の母子（胎児を含む）と家族の健康に焦点を当て、対象の生理的、心理社会的変化と適応過程について理解を深める。加えて、周産期における母子・家族への看護ケア、およびセルフケア能力の向上、家族形成、親役割獲得への支援について考察する。女性のライフコースにおける健康や女性生殖器疾患について理解を深め、女性中心のケアについて考察する。
看護学科目	女性のライフコース支援論Ⅱ	1		2年次後期	池田智子 蚊口理恵 田中幸恵 比名朋子	周産期にある女性の心理的、身体的、社会的特性及び、新生児の特徴をふまえた看護援助のあり方、さらに家族拡大期における母性・父性役割形成への支援について教授する。さらにこれら知識をふまえ、周産期における母子とその家族が健康な生活が送れるようにするための看護方法について教授する。
看護学科目	女性と女性の健康		1	3年次前期	高田昌代 井上理絵 池田智子 蚊口理恵 田中幸恵 比名朋子	ジェンダーの視点で、乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期における女性の健康問題を考える。これらの内容を通して、女性が健康に生きていくことの理解を深める。さらに、女性の健康を社会的な視点からも捉え、社会問題としても考える。
看護学科目	ウィメンズヘルス看護学実習	2		3年次後期	高田昌代 井上理絵 池田智子 蚊口理恵 田中幸恵 比名朋子	周産期における健康な母子および家族の身体的、精神的および社会的な変化や、健康ニーズ、適応過程を理解し、ウェルネスの視点から個別的な看護が実践できる基本的能力を修得する。さらに地域社会における母子に対する支援について現状を把握し、対象者が利用できるための支援能力を育成する。
看護学科目	小児健康生活支援論	1		2年次前期	半田浩美 二宮啓子 山本陽子	小児看護の理念とともに、健康な子ども観、子どもの権利と倫理的課題、成長・発達原則、乳児期から思春期までの身体・心理・社会的成長発達過程とその評価方法について教授し、子どもが家族・社会の中で順調な成長・発達とともに健康に生活するために必要な支援とその方法について教授する。
看護学科目	小児療養生活支援論	1		3年次前期	半田浩美	健康障害および入院が子どもと家族に及ぼす影響、ならびに療養する上での様々な状況とその支援について教授する。また、小児期に特有の疾患、事故や外傷について、それぞれの病態生理・治療法・援助方法を中心に教授し、子どもの療養生活を支援するための能力を養う。
看護学科目	小児看護援助論	1		2年次前期	半田浩美 二宮啓子 山本陽子 清水千香	小児特有の療養生活支援技術について教授するとともに、学生がこれまでに習得してきた援助方法に関する基礎的知識を用いて健康障害をもつ子どもと家族の事例を展開する中で、彼らが直面する療養生活上の問題を解決するための支援方法を導き出す能力を養う。
看護学科目	小児看護学実習	2		3年次後期 ～4年次前期	二宮啓子 半田浩美 山本陽子 清水千香	小児の成長・発達および健康上の問題とそれに伴う生活の変化を、身体・心理・社会的な視点からとらえ、発達段階に応じた健康回復への看護を実践する能力を習得すると同時に、病院から家庭あるいは他施設への移行に伴って必要となる支援を提供する能力を養う。
看護学科目	急性期看護論	1		2年次前期	江川幸二	急性期の健康障害とこれへの一般的な治療に伴う患者や家族の痛み・苦痛を理解し、苦痛の緩和と自我の統合を促すための援助のあり方について教授するとともに、援助に必要な技術について習得する。

2022年度 実務経験（臨床経験）のある教員の授業科目一覧

科目分類	講義名称	単位数		開講年次	担当教員名	授業科目の概要
		必修	選択			
看護学科目	周手術期看護論	1		2年次後期	佐藤 隆平	周手術期にある患者の身体・心理・社会的な特徴や、手術侵襲が患者に及ぼす影響を理解し、術前・術中・術後における患者のアセスメントの視点、援助方法について教授する。
看護学科目	クリティカルケア論	1		2年次前期	佐藤 隆平	クリティカルケア環境の特殊性とそれが患者・家族に及ぼす影響を理解し、クリティカルケアを必要とする代表的な患者の看護のあり方について教授する。またクリティカルケア環境における倫理的側面について、グループワークで考えを深める。
看護学科目	周手術期看護学実習	2		3年次後期 ～4年次前期	江川幸二 佐藤隆平 川畑美貴 石関美津子 佐藤智夫	周手術期における患者の病態、治療およびそれに伴う患者・家族の心理・社会的側面を理解し、状況の変化に応じて回復および適応への援助ができる能力を習得する。
看護学科目	クリティカルケア看護学実習	1		3年次後期 ～4年次前期	江川幸二 佐藤隆平 川畑美貴 石関美津子 佐藤智夫	クリティカルケアの場の見学を通して、生命維持のための看護のあり方、および患者の人権擁護と家族に対する支援を考慮した看護のあり方を学ぶ。
看護学科目	慢性病看護学概論	1		2年次前期	池田 清子	慢性疾患（がん、生活習慣病、特定疾患）をもちながら生活している人と家族の体験を理解するとともに、対象の療養生活を支援するために基盤となる概念やモデルについて学ぶ。
看護学科目	慢性病療養生活支援論	1		2年次後期	池田清子 畑中あかね 小山富美子 高山良子 後藤由紀子 樋口佳耶	慢性疾患の代表的な療養法の原理と実際を理解し、さまざまな場で療養生活を送る患者と家族を病みの軌跡の局面から全体的に理解する。療養法を生活に取り入れ、その人らしい生活が送れるよう対象を支援するための基礎的能力を習得する。
看護学科目	がん看護と緩和ケア	1		3年次前期	小山 富美子	がんの予防期、診断・治療期、再発期、終末期といった病気の経過を通して患者と家族に生じる身体的、心理的、社会的、霊的な問題を明らかにし、がん患者と家族の Quality of Life (QOL) を向上させていくための看護のあり方を学習する。
看護学科目	リハビリテーション看護論	1		3年次前期	畑中あかね 池田 清子	リハビリテーションの考え方を基盤に、障害とともに生きる人の強さと可能性を見出し、生活を再構築する過程に寄り添う看護について学ぶ。また、チーム医療における看護職の役割について学ぶ。
看護学科目	慢性病看護学実習	2		3年次後期 ～4年次前期	池田清子 畑中あかね 小山富美子 高山良子 後藤由紀子	慢性病とともに生きる対象とその家族を長期的な見通しから理解し、症状マネジメントとリハビリテーションに必要な援助ができる能力を習得する。また、慢性病をもちながらその人らしい生活が送れるような看護のあり方について学ぶ。
看護学科目	老年健康生活支援論	1		2年次前期	坪井桂子	老年期を生きる高齢者を老化過程への適応と発達の存在の視点から捉え、健康に老いることを支援する看護実践のための基礎的な知識と議論を提示し教授する。
看護学科目	老化と老年病	1		2年次後期	谷知子	人間の老化を説明するモデルに基づき、加齢による身体・心理社会的変化について学習する。また、老化過程への適応と老年期に発生しやすい病態の予防、看護実践のための基礎的な知識について教授する。
看護学科目	老年療養生活支援論	1		3年次前期	坪井桂子 石橋信江 秋定真有 蒲谷苑子	老化と老年期特有の疾病、老年症候群により、生活機能の低下・障害をきたし日常生活に支援が必要となった高齢者とその家族に対する看護の役割と具体的援助方法を教授する。
看護学科目	老年看護学実習	2		3年次後期 ～4年次前期	坪井桂子 石橋信江 秋定真有 蒲谷苑子	療養が必要となった高齢者を総合的に理解し、その個人と家族に必要な支援を実践する能力を習得できるよう育成する。また、生活の場が移行する高齢者に必要な支援を他職種との連携・協働をとって実践する能力を習得できるよう育成する。
看護学科目	精神健康生活支援論	2		2年次前期	山岡由実 坂口豊代 関口瑛里	人間の心のしくみとその発達、人間関係ダイナミクスにおけるその働きや変容、危機的状況下での心の反応と援助について関連する諸理論を用いて教授する。また精神保健について、その歴史と法律から概要を学ぶ。
看護学科目	精神療養生活支援論	1		3年次前期	船越明子 坂口豊代 関口瑛里	心の健康の増進のため、怒り・抑うつ・不安などさまざまな健康レベルの問題をもつ対象に必要な援助を提供する方法について、実践的に教授する。
看護学科目	精神看護学実習	2		3年次後期 ～4年次前期	船越明子 山岡由実 坂口豊代 関口瑛里	精神に障害を持つ人とその家族を総合的に理解し、セルフケアの拡大に向け治療的援助関係を形成すると共に、長期的な見通しをもちながら、看護を実践する能力を習得する。また同時に、病院から在宅あるいは他施設への移行に伴って必要となる支援を考え、提供する能力を習得する。加えて、現在の精神保健医療福祉の今後の課題についても検討する。
看護学科目	在宅看護概論	1		2年次後期	丸尾智実 片倉直子 宇多みどり	在宅看護の目的、役割と機能および訪問看護制度について学び、在宅看護に関連する諸制度や在宅看護を取り巻く地域包括ケアシステム、ケアマネジメント、社会資源との関連を理解する。

## 2022年度 実務経験（臨床経験）のある教員の授業科目一覧

科目分類	講義名称	単位数		開講年次	担当教員名	授業科目の概要
		必修	選択			
看護学科目	在宅看護論	1		3年次前期	片倉直子 丸尾智実 宇多みどり 大瓦直子	在宅療養者の状態・状況の多様性と今後の病状の予測を踏まえて在宅療養者の自立・自律を促し、生活の質を維持・向上させていくための看護が展開できるように、ライフステージや病態・疾患別対象やその家族への支援のあり方を学ぶ。 さらに、訪問看護で多く接する状況を設定し、看護課程の展開や在宅医療技術の演習を行うことで、訪問看護における看護課程を展開する能力を培う。
看護学科目	在宅看護学実習	2		3年次後期	片倉直子 丸尾智実 宇多みどり 大瓦直子	地域で生活している様々な状況にある療養者とその家族を総合的にとらえ、療養生活を支える看護活動を展開する能力を養う。また、在宅ケアシステムにおける訪問看護ステーションの機能を理解するとともに、地域における他の関係機関や関係職種との連携および協働について理解する。訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所における実習を通して、下記の到達目標を達成できるように学ぶ。1) 療養者とその家族の療養生活における健康上の課題、および生活状況が理解できる。2) 療養者とその家族の療養生活を支えるための看護が実践できる。3) 在宅ケアシステムにおける訪問看護ステーションの機能と訪問看護の役割が理解できる。4) 在宅ケアシステムにおける関係機関・職種との連携・協働およびケアマネジメント機能について理解できる。5) 在宅ケアにおける倫理的課題とその対応について考えることができる。6) 多様な年代や様々な立場の人々と援助的な人間関係が形成できる。
看護学科目	地域看護学概論	2		2年次後期	岩本 里織	地域で生活する人々の健康とQOLを高めることを主眼とする地域看護について理解し、地域を基盤として行われている看護活動の全体像と基本的な考え方を学ぶ。具体的には地域看護の特性、特徴、活動方法、役割機能について教授し、看護職として必要な地域の看護職に関する知識を深める。また、広く地域で活動する保健師について理解し、資格取得への関心を高める。
看護学科目	地域看護支援論	1		2年次後期	山下正 山田暢子	個人・家族・特定の集団を発達段階や健康課題、地域特性に応じて捉え、地域を基盤として健康問題や課題を解決するための看護活動を学ぶ。地域社会で生活している人々の視点を持ち、看護を展開できる能力を養うために、各ライフステージおよび感染症、難病等に関する保健医療福祉と看護活動に関する講義、ディスカッションを行う。
看護学科目	公衆衛生看護活動論Ⅰ		1	3年次前期	岩本 里織	保健師の虐待、社会的弱者、精神障害者、結核感染症患者、障害者等への個別・家族への支援方法について事例を用いて学習する。
看護学科目	公衆衛生看護活動論Ⅱ		2	4年次後期	岩本里織 山下正 山田暢子	公衆衛生看護において、保健師が行う地区管理や人材管理、健康危機管理などの管理的業務の概念や方法論について概説する。また地域におけるケアシステムの構築やケアマネジメントに関する知識と基本的技術について教授する。
看護学科目	公衆衛生看護技術論		1	3年次前期	山下正 山田暢子	地域で看護する際に必要な「保健指導」「家庭訪問」「健康相談」について、事例を通して理解するとともに、保健師に必要な活動展開技術を習得する。さらに演習やグループワークを通して、地域での生活を視野に入れたアセスメント、看護計画の立案、実施、評価のプロセスを学ぶ。
看護学科目	健康学習論		1	3年次前期	岩本里織 山下正 山田暢子	地域における活動展開方法のひとつであり、個人の行動変容を促す健康教育・健康学習に関して必要な理論や方法論を学ぶとともに、個人や集団の対象の特性にあった健康教育を企画立案、実施できる能力を習得する。
看護学科目	産業保健活動論		1	3年次前期	山岡由実 山田暢子	働く人々および職場を対象とした看護活動について、目的や理念、対象の特性について教授し、産業保健活動の重要性について学ぶ。また、事業所における個人、集団、組織への支援方法、および地域保健との連携について理解を深める。
看護学科目	地域看護診断論		2	4年次前期	岩本里織 山下正 山田暢子	地域をさまざまな角度から情報収集・アセスメントし、地域特性やヘルスニーズ、地域の健康課題を明らかにするための基本的技術を習得する。具体的な方法論として、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを活用した地域看護診断を用い、地域看護活動過程における一連のプロセスを教授する。
看護学科目	地元創成看護論		1	1年次前期	岩本 里織	人々が生活する場である地域/地元について理解し、地域におけるコミュニティの人々の活動の実際や、多様な人的・物的資源の概要について学ぶ。 また、地域を自分の目で見て、地域に住む人々の生活と健康について知り、健康と地域環境との関連について考える機会とする。本学周辺の地域を「地元」として捉え、神戸市の特徴について知る。
看護学科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ		3	3年次後期 ～4年次前期	岩本里織 山下正 山田暢子	慢性疾患（がん、生活習慣病、特定疾患）をもちながら生活している人と家族の体験を理解するとともに、対象の療養生活を支援するために基盤となる概念やモデルについて学ぶ。
看護学科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ		2	4年次前期	岩本里織 山下正 山田暢子	ひとつの地域を担当して地域看護診断を実地的に体験することにより、地域におけるヘルスニーズの把握、健康課題の抽出、活動計画の立案、実践および評価の一連の地域看護過程を展開できる能力を養う。また、保健師が行う管理的業務、コーディネーター、システムづくり、健康危機管理などの具体的活動についての理解を深める。
看護学科目	看護管理学Ⅰ		1	2年次後期	林 千冬 花井理紗	保健医療の組織において、看護職者として自律的に活動していくために必要な、看護管理の基礎理論・基礎概念を教授する。加えて、看護の質保障ならびに質改善の概念を、医療安全と労働安全衛生の具体的な取り組みと併せて教授する。
看護学科目	看護管理学Ⅱ		1	4年次後期	林 千冬 花井理紗	病院組織における看護管理について、総合実習・看護管理学実習の成果を題材にした討議・考察をとおり実践に即した理解を図る。さらに看護職者をとりまく周辺に関連団体・組織についても解説し、看護管理や看護政策、キャリア開発などとの関係について考えを深めさせる。

2022年度 実務経験（臨床経験）のある教員の授業科目一覧

科目分類	講義名称	単位数		開講年次	担当教員名	授業科目の概要
		必修	選択			
看護学科目	医療・看護政策論		1	4年次前期	林 千冬 花井理紗	医療・看護の政策決定過程のしくみについて、関連法制度の成立ないしは改正過程などの具体事例を教材としつつ教授する。加えて、医療・看護の政策から政治決定に関わる主たるアクター（個人・団体）の構成と、そのパワーのありようについても解説する。
看護学科目	看護管理学実習 （編入生のみ必修）	1*		3年次後期	林 千冬 花井理紗	病院でのリーダー、主任以上の管理職に各自が同行し、それらの日常業務の中に含まれるマネジメント活動を観察、記述、グループワークにて観察事例の共有と討論をさせることを通じ、看護管理学Ⅰで学ぶ看護管理の基礎理論や概念を、現実の看護職者の活動とむすびつけて理解させる。
看護学科目	看護教育学概論	1		3年次前期	澁谷幸 林千冬	看護学教育の特徴を理解し、看護学教育を受けている自分自身に対する理解を深める。また看護職者のキャリア開発や准看護師制度問題における現状と課題を考察する。
看護学科目	看護生涯学習論		1	4年次後期	澁谷幸	生涯学習とは何かを理解する。さらに看護職者の生涯学習はいかにあるべきかを、看護生涯学習の実際から学ぶ。それに基づいて、自分の看護生涯学習を計画する。
看護学科目	健康生活支援学実習	2		2年次後期	岩本里織 健康生活看護学分野教員	地域で生活する人々の中で関わる力を養い、人々の生活と地域特性を理解し、その人にとっての「健康」とは何かを考える。また人々が健康を維持・増進するための支援の在り方を考察する。
総合科目	総合実習	3		4年次前期	看護学分野教員	既習の看護学実習をとおして学んだ内容をふまえ、実際の看護チームのなかでケアを実践するとともに、看護管理者のマネジメント活動を理解することとおして、専門職業人としての責任の自覚と倫理観に基づく基本的な看護実践能力を習得する。
看護学科目	家族看護学概論	1		3年次前期	高山良子	家族看護学の考え方や現代家族を理解するための家族システム、家族機能、家族発達、家族関係等に関する考え方を学習する。その上で、家族を対象としたアセスメントと援助に有用な理論や考え方の学習を深める。
看護学科目	家族看護支援論	1		4年次前期	高山良子	家族看護における看護師の役割を明らかにするとともに、家族看護学概論で学習したアセスメントや援助方法に関する理論や考え方を活用し、臨床の場や在宅で出会う、さまざまな困難に直面している家族への援助方法を学習する。
看護学科目	国際看護論	1		2年次後期	山下正	地球温暖化、グローバル化など地球規模での変化は世界の人々の健康に直接的な影響を与えている。その影響は、世界で一番多い保健医療職であり、どの国・地域でも第一線で人々の健康を護り支えている看護職にもおよんでいる。その中で看護師たちは実際にどのような活動をおこなっているのかを、それを支えるICNの活動とともに学び、広い視野で看護をとらえる能力を身につける。
看護学科目	災害看護論Ⅰ	1		3年次前期	高田昌代 山岡由実 石橋信江 基盤看護学分野教員 健康生活看護学分野教員	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から発災直後および中・長期に渡り必要となる看護活動について学び、災害看護活動に参加できる基礎的能力を習得する。
看護学科目	災害看護論Ⅱ		1	4年次前期	佐藤隆平 池田清子 療養生活看護学分野教員	災害看護Ⅰで学んだ基本的知識と技術を応用し、災害における看護実践力を養う。
看護学科目	感染看護論	1		3年次前期	佐藤 隆平	微生物対策を柱とする管理的活動の基礎として、微生物の生体への影響、外科的無菌法・消毒法・隔離法、化学療法管理、院内感染予防などについて教授する。
看護学科目	生と死のケア論	1		4年次後期	江川幸二 坪井恵子 船越明子 片倉直子 池田清子 半田浩美 高山良子	人の一生は「誕生から死まで」のライフサイクルをもっている。人生の終末の段階は一般的には老年期と理解されているが、発達段階のすべての段階で「死」を迎える可能性がある。あらゆる発達段階やあらゆる療養の場（病院、施設、在宅など）における「死」に向けての援助、言い換えるならば終末期におけるよりよい「生」をどのように支援するかについて、また、生と死に向き合う看護者の体験について、実習の学びを基盤として、end of life careの実践能力の基礎を開発する。科目の趣旨に則り、小児看護学、慢性看護学、急性期看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護学のオムニバスで担当する。
看護学科目	看護学ゼミナール		1	4年次後期	看護学分野教員	看護学における最新の研究動向をふまえた話題や専門領域の諸問題を題材として議論を深める。
看護学科目	多職種連携Ⅰ		1	1年次後期	片倉直子 谷知子 丸尾智実 宇多みどり 大瓦直子	卒業時に地域の保健医療福祉領域におけるニーズを的確に把握し、多職種連携協働による対象者・家族・コミュニティ中心のケアに寄与できるように、各職種の業務や役割、多職種連携の方法について理解し、実践していく基盤を養うことを目的とする。多職種連携Iのねらい：1. 保健医療福祉分野にかかわる職種（看護職、薬剤師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、管理栄養士、公認心理士など）の業務を概説できる。2. 国および地域における保健医療福祉分野のニーズを概説できる。3. 多職種連携を行う上で、看護専門職として必要な学びを述べるができる。4. 他者と適切にコミュニケーションし、より良い人間関係を築くことができる。5. グループ活動で自らの考えを積極的に述べるができる。6. 価値観の多様性を理解し、他者の意見を尊重することができる。
看護学科目	多職種連携Ⅱ		1	2年次後期	片倉直子 谷知子 丸尾智実 宇多みどり 大瓦直子	多職種連携IIのねらいは、下記のとおりである。1. 対象者・家族・コミュニティの視点を踏まえた専門職の連携・協働の必要性を概説できる。2. 自職種の考え方・行動・関心を概説できる。3. 他職種の考え方・行動・関心を概説できる。4. 複数の職種における関係の構築や維持・成長に必要な学びを述べるができる。5. 他職種学生と適切にコミュニケーションし、対象者・家族・コミュニティ中心のケア体制を意識したチーム形成ができる。6. 職種の違いによる価値観の多様性を理解し、その意見を尊重することができる。

2022年度 実務経験（臨床経験）のある教員の授業科目一覧

科目分類	講義名称	単位数		開講年次	担当教員名	授業科目の概要
		必修	選択			
総合科目	看護研究方法論Ⅰ	1		3年次前期	谷 知子	看護学研究に関する基礎的理解を得ることを目的として、研究のプロセスの前半の山場である研究目的の明確化とそのため不可欠な要素である文献検索・検討について学ぶ。
総合科目	看護研究方法論Ⅱ	1		4年次前期	岩本里織 船越明子 藤木篤 秋定真有 川畑美貴 山田暢子	看護学研究に関する基礎的理解を得ることを目的として、研究プロセスを学ぶ。研究目的を達成するために重要な方法論に焦点を当てるとともに、研究対象者の権利擁護のための倫理的配慮をとりあげる。
総合科目	研究演習	3		4年次通年	全教員	既習の授業や実習等を通じて、学生それぞれが関心をもった研究テーマに取り組む。研究テーマに応じた学問分野の指導教員よりゼミ形式あるいは個別での指導を受け、一連の研究プロセスを経験し研究成果をまとめる。この科目を看護学部での学習・研究の集大成と位置付け、看護学士としての科学的視点の基盤を確固たるものとすることを目指す。
総合科目	ボランティア活動		1	1・2・3・4年次	池田清子 畑中あかね 後藤由紀子	ボランティア活動を通して、「他者を知る」「社会を知る」「自分を知る」ことをめざす。ボランティアの経験は看護職としての自己の基盤作りにつながる。